

4 研究に関する事項

第5次長期計画の3年目となる2012年度は、2011年度に新たに構築した「強みのある研究」「仏教を機軸とした特色ある研究」の一層の推進を図った。初年度の選定時においては「強みのある研究」の категория に対してのみ学内申請があったが、2012年度の選定時においては「仏教を機軸とした特色ある研究」の categoria に対しても新たに学内申請があり学内採択を受けた。これにより今後の仏教を機軸とした一大拠点形成に向けて、既存の仏教関連プロジェクト及び仏教文化研究所とともに取り組む基盤ができた。

また、その他の研究事業計画の柱である「研究評価制度」、「社会から評価される研究の推進と外部資金の確保」、「研究成果の社会に向けた発信力強化」、「研究支援体制の整備と新展開」についても順次施策の展開を進めた。

1 強みのある研究と仏教を機軸とした特色ある研究の推進

●「人間・科学・宗教」3つの知の融合

「人間・科学・宗教」という3つの知の融合を目指して人間・科学・宗教総合研究センターのもとでの研究の個性化と特色化を図るために、2011年度に引き続き「強みのある研究」と「仏教を機軸とした特色ある研究」を全学研究高度化推進事業の中に位置付けて公募し、第5次長期計

画に基づき構築した新制度の下、人文、社会、自然、学際的各領域の研究プロジェクトを選定した。

その結果、応募のあった4件のプロジェクトのうち2件のプロジェクト——「相界面のスマートデザインによる生体規範材料の創製」(革新的材料・プロセス研究センター)、「仏教・浄土教を機軸としたグリーンサポートと救済観の総合研究」(人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター)を最終的に学内採択した。また、「革新的材料・プロセス研究センター」のプロジェクトについては、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(以下「戦略支援事業」という)への申請をおこなった。

●研究拠点形成へ向けた研究活動の推進

2012年度は、戦略支援事業のために既に設置されている「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター」、「アジア仏教文化研究センター」、「アフラシア多文化社会研究センター」、「地域公共人材・政策開発リサーチセンター」において、引き続き活発な研究活動を展開した。また、「文化財及び学術資料の利活用のための次世代デジタルアーカイブ構築」(古典籍デジタルアーカイブ研究センター)が戦略支援事業に新たに採択され、研究活動を開始した。あわせて、新たに学内資金による指定プロジェクトとして学内採択された「里山モデルによる持続可能社会の構築に関する総合的研究」(里山学研究センター)と戦略支援事業に応募したものの不採択となった「グリーンプロセスによる自然エネルギー有効利用材料の製造技術開発」(革新的材料・プロセス研究センター)が学内資金による研究活動を展開した。

このほか、大学間共同利用機関法人 人間文化研究機構が実施する地域研究推進事業として2010年度に採択された「現代インド地域研究拠点」についても京都大学や東京大学等と連携しつつ委託研究事業を継続して実施した。また、本学が特に必要とする研究プロジェクトとして「混一疆理歴代国都之図研究プロジェクト」が引き続き研究活動を展開した。

2 研究評価制度

● 研究評価制度の構築

強み・特色ある研究、付置研究所、研究員制度といった研究関連諸制度における適切かつ公正な研究評価のあり方について継続的に検討をおこなった。特に、戦略支援事業として実施しているプロジェクトに対する研究評価のあり方や付置研究所における研究プロジェクトに対する研究評価についての検討をおこない、従来は5年プロジェクトに対してのみ実施していた外部評価について、人間・科学・宗教総合研究センターの下の学内プロジェクトを含むすべてのプロジェクトに対して外部評価を実施すべく制度改革をおこなった。

3 社会から評価される研究の推進と外部資金の確保

● 科学研究費

競争的外部資金、特に科学研究費の獲得に関しては、2011年度に引き続き、学内説明会を複数回にわたって開催し、窓口相談体制の強化、申請サポート制度の拡充等を精力的におこなった。この結果、科学研究費の獲得額については、代表者採択分が総額227,650,000円、分担者分が38,682,800円となり2012年度においても1億円以上を獲得できた。また、新規採択率については32%となり全国平均30.2%を1.8%上回った。

● 受託研究費・奨学寄付金

受託研究及び奨学寄付金については、2012年度は、研究者やRECとの更なる積極的な連携強化の結果、受託研究費182,376,120円、奨学寄付金19,739,334円をそれぞれ獲得することができた。これに伴い、本学は2004年度以降、毎年総額1億円以上の受託研究費・奨学寄付金を獲得し続けていることになる。

● 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

戦略支援事業について、2012年度は、「文化財及び学術資料の利活用のための次世代デジタルアーカイブ構築」

龍谷大学が展開するプロジェクト一覧

<文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクト>

①古典籍デジタルアーカイブ研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
文化財および学術資料の利活用のための次世代デジタルアーカイブ構築	2012~2014	91,000,000

②アジア仏教文化研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究	2010~2014	170,400,000

③人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
死生観と超越—仏教と諸科学の学際的研究	2010~2012	93,472,000

<大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 地域研究推進事業「現代インド」地域研究拠点形成事業>

①現代インド研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
現代インド地域研究(龍谷大学拠点) 現代政治に生きるインド思想の伝統	2010~2014	未確定

<学内資金指定プロジェクト>

①里山学研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
里山モデルによる持続可能社会の構築に関する総合的研究	2012~2014	10,500,000

④アフラシア多文化社会研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
アジア・太平洋地域における人の移動にともなう紛争と和解についての総合研究—市民社会・言語・政治経済を通してみる多文化社会の可能性—	2011~2013	105,779,000

⑤地域公共人材・政策開発リサーチセンター (LORC)

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
人口減少時代における持続可能な地域づくりのための制度的インフラと地域公共人材育成の実践的研究	2011~2013	113,863,000

②革新的材料・プロセス研究センター

プロジェクト名	期間(年度)	総予算額(円)
グリーンプロセスによる自然エネルギー有効利用材料の製造技術開発	2012	5,000,000

(古典籍デジタルアーカイブ研究センター)が「大学の特色を活かした研究」(3カ年)として採択され、研究活動を開始した。

4 研究成果の社会に向けた発信力強化

● 研究者データベースの活用

学校教育法施行規則等の一部改正を受けて、2011年4月より研究者の学位や研究業績を開示することが義務づけられたことに伴い、構築した本学独自の研究者データベースにおける情報の充実を図った。特に2013年度受審予定の認証評価の準備にあたっては、本データベースの研究業績情報を活用するという方針のもと、各研究者が個々に情報の充実に取り組んだ。同データベースは、今後も本学の研究者情報に関するメインツールとして、研究成果の発信・広報体制強化の上で大きな役割を担うことが引き続き期待される。

● 龍谷ミュージアムを活用した研究成果の発信

100%外部資金(科研費等)による「混一疆理歴代国都之図研究プロジェクト」において、混一疆理歴代国都之図に関する国際シンポジウム及び展覧を龍谷ミュージアム等で行い、広く社会に公開することにより研究成果を発信し

た。

5 研究支援体制の整備と新展開

● 科学研究費獲得増に向けた体制整備

研究者が各々の能力を十分に発揮できる研究環境を整備するため、競争的資金獲得に関する情報の迅速な収集や提供を含む様々な研究支援制度の拡充を図った。特に科学研究費獲得に資する支援体制の整備に関しては、2011年度に引き続き過去に採択された研究課題申請書の閲覧制度を実施したり、申請書に対する助言をおこなうアドバイザー委員会を設置したりする等、サポート制度を実施するとともに、独立行政法人日本学術振興会による学内説明会の実施、科研費獲得に関する書籍の貸出等の新たな施策も講じた。

● 基盤的研究や萌芽的研究に対する支援の強化

多様な研究分野に対応する研究環境を整備し、研究活動をより充実させていくために、様々な学内助成制度についての改善策を講じた。また、付置研究所の研究活動を推進し、すべての研究者の研究機会を一定の基準で公平に保証しながら、多様な研究分野における基盤的研究や萌芽的研究への支援の強化に努めた。